

卒業生インタビュー / 私も

大です

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



工学部 出身

山下 美衣 さん

株式会社ヒロテック
技術開発部 ドア製品設計課

やました・みえ / 広島大学工学部第一類2018年卒業。株式会社ヒロテックに入社後、技術開発部のドア製品設計課に配属される。現在はドア製品設計課に所属し、自動車のドアの開発・設計業務を担当している。



理学部・大学院理学研究科 出身

逸見 敬太郎 さん

広島市森林公園こんちゅう館
技師

へんみ・けいたろう / 広島大学理学部を2015年に卒業後、大学院へ進み両生類研究施設(現両生類研究センター)でカエルを研究。2018年、博士課程後期在籍中に広島市森林公園こんちゅう館へ就職。2020年、博士(理学)を取得。

加工技術のダイナミズムに触れる

国内自動車メーカーのドアや排気システムの開発・製造を担う、株式会社ヒロテックに勤務しています。所属するドア製品設計課では、試作品を用いた実験とPCでのシミュレーションを通して自社製品の性能を測定する業務にあたっています。

ドアの性能を正確に把握するためには、あらゆる角度から実験を行うことが重要です。必要な測定方法は前例がない場合も多く、論文を手掛かりに方法を模索します。誰も知らなかったアプローチを考案できたときには、大きなやりがいを感じます。

私がドア製作の面白さに気付いたの

は、自動車メーカーのインターンシップで試作車の製作現場を見学したことがきっかけ。硬い鉄板が一つのしわやゆがみもなく、美しい流線形に加工される様に魅了されました。憧れの仕事に従事している今は、毎日が充実しています。

学生時代に身に付けた適応力を生かして

在学中は、自分の知的好奇心の赴くままに、大学で開講されるさまざまな講義を受けていました。専攻に全く関係のない、他学部の授業を受けたこともあります。講義の内容が今の業務と直接つながることはありませんが、未知の分野に対する適応力や、何事にもチャレンジする姿勢は、その時の経験から培われました。もちろん、業務の中で工学部の学びに助

けられたことも多々あります。必修科目を通して身に付けた幅広い分野の基礎知識や、シミュレーションを使用した研究のノウハウは今も役立っています。

自動車が進化するにつれ、部品に求められる性能も日々変わっていきます。クライアントのどんな要望も形にできるよう、今後も自分の技術力をさらに伸ばしたいと考えています。

広大のここがええね!

業務で参照する論文には、学生時代に講義を受けていた先生の名前が載っていることも。企業の現場でも役立つ、最先端の研究を学んできたことを誇らしく感じました。

生き物好きが高じて昆虫を仕事に

物心ついた頃から、大の生き物好き。中学以降、植物や魚、哺乳類、昆虫とさまざまな生き物を研究し、学生時代には自転車で東広島キャンパスから広島市森林公園こんちゅう館まで往復4時間かけてアルバイトに通っていました。中でも、昆虫の姿形の多様さや、まるで人間のような複雑な社会を構成する暮らしぶりにとても魅力を感じます。

現在はこんちゅう館の技師として、昆虫の飼育や展示業務、保育園などへの出張授業、絶滅危惧種の保護活動などに携わっています。特に昆虫のふ化について考える際には、広島大学で学んだ発生学などの知識が役立っています。ま

た、博士課程後期では「世界一かわいい」といわれるアフリカのフラガエルを研究していたのですが、カエルは生餌しか食べないのでとても餌に気を配っていました。生き物の餌に対するノウハウは、現在昆虫の飼育にも生かされています。

生きた展示を通して子どもたちに魅力を伝えたい

広島市のこんちゅう館は標本ではなく生きた昆虫の展示に特化した、日本でも珍しい施設です。それぞれの昆虫特有の行動を観察できるよう工夫した展示作りも、私の仕事の一つ。例えば、カバーを開けるとシロアリの巣の内部が見える飼育箱を自作しました。私の展示をきっかけに、子どもたちに生き物たちの

面白い生態を知ってもらいたいですね。

昆虫の魅力伝える際に気を付けているのは、先入観を与えないこと。見て触って、どう感じるのかは子どもたちの感受性に任せるようにしています。

昨年の大雨の影響で現在は閉館中ですが、開館した際には、元気な昆虫たちとよりパワーアップした展示を皆さんに楽しんでいただきたいと思います。

広大のここがええね!

東広島キャンパスは生き物好きにとって天国のような環境でした。珍しい生き物を探して、キャンパス中を走り回っていましたね。あれだけ生物多様性の豊かなキャンパスはなかなかないのではないのでしょうか。